

アマミノクロウサギによる農作物被害を抑えるために

大島高校 3年 濱田 健渡

1 探究動機

世界自然遺産に登録されてから表面化した課題

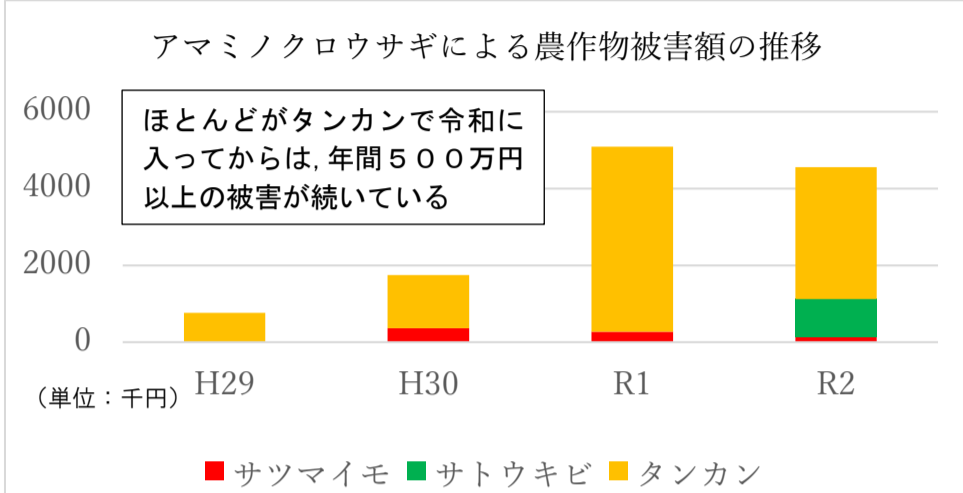
→アマミノクロウサギによる食害が拡大している

これは自然との共生を目指すために乗り越えなくてはならない課題！

保護活動の成果としてアマミノクロウサギ（以下クロウサギ）の個体数は増加

（2003年：約5000匹→2021年：1万～3万匹）

⇒クロウサギが好んで食べる作物の農作物被害が増加している



2 課題の究明 : 農園へ直接出向き、事実関係を調査！

大和村福元盆地のゆか農園を訪問(クロウサギの食害が初めて確認された場所)



大和村産業振興課 福本新平さんによると

③④の防護柵が未設置の場所での工夫

ゆかの幼木



クロウサギの保護とクロウサギによる食害対策の両立が必須

保護対策

・マングース、ノネコの捕獲

・ロードキル防止対策

(例) ドライバーへ注意を促す段差（道路黄色部分）と看板



食害対策

・敷地内へのクロウサギの侵入を防ぐための防護柵を設置する

→設置した防護柵の効果を調査し改善していく

【食害の事例】

①鹿児島大学奄美分室提供のアマミノクロウサギによるイモの食害

天然記念物で、捕まえて移動させることも禁じられているため、畑に入っても野放しの状態



②鹿児島大学奄美分室提供のアマミノクロウサギによるタンカンの食害



③実際の防護柵(農園の敷地を100mほど囲うように設置している)



地面を掘って侵入するのを防ぐ



④農家の方々が組み立てから設置まで行う



柵の構造



しなやかに揺る



1m50cm

4cm四方の枠、8cmまで通り抜けることを確認。

※防護柵の効果認められれば、国からの補助が継続的に行われる

- 課題①倒木などで防護柵が壊れてしまうと、補助なしでの新たな設置は困難
- 課題②補助が出るまでは柵の設置費用は自弁である
←Crowdfundingで資金調達も考えたが、一方的にクロウサギを悪者にする恐れがあるとのことから安易に行えないとの結論
- 課題③クロウサギの生態に不明な点が多く、柵の効果についても効果は不明のままである。
→カメラを設置し、効果を粘り強く検証する必要がある。

3 アマミノクロウサギとの共生をめざして

- ・アマミノクロウサギが害獣と見なされるようになることは避けたい。
- ・クロウサギを保護するとともに、人間が農園に設置した柵を守ることで、クロウサギとの共生を図る。→設置した柵の見回りも行う。
- ・単に侵入を防ぐのではなく、ススキやセンネンボクなど、クロウサギの食料となる植物を植えることも対策として考えられる。
- ・長期的対策となるので、奄美にすむ人たちに現状を伝えて理解を広げていくことが大切。

* 福本さんの「クロウサギがもともといた場所に、農園を作ったからには、それなりの覚悟が必要」との言葉が強く印象に残った。

* **正しい知識と考えを持って自然と共生することが必要!**